

## 第5章 トピックス

### ・大気への排出量と製造品出荷額との比較

景気等による経済活動の変動に伴い、製品の生産量が増大すれば製品生産時の化学物質の取扱量も増大し、結果として排出量・移動量が増加するものと一般的には考えられます。そこで、排出区分の大部分を占める大気への排出量上位6業種について、経済産業省工業統計調査の製造品出荷額とPRTR届出データの比較を行いました。

なお、化学工業と繊維工業、一般機械器具製造業と精密機械器具製造業は、平成15年度以降の6年間で日本産業分類の改訂により、互いの業種で一部入れ替えがあったため、今回の比較では合算し1業種として扱っています。

図15に大気への排出量上位6業種の推移を、図16に大気への排出量の対平成15年度比の推移を示します。大気への排出量は6業種とも平成15年度と比べて少なくなっていますが、化学・繊維工業とパルプ・紙・紙加工品製造業は減少幅が大きいのに対して、輸送用機械器具製造業、金属製品製造業及びプラスチック製品製造業は減少幅が小さくなっています。また、一般機械器具製造業・精密機械器具製造業の場合は、平成19年度まで毎年増加していましたが、平成20年度で初めて減少に転じています。

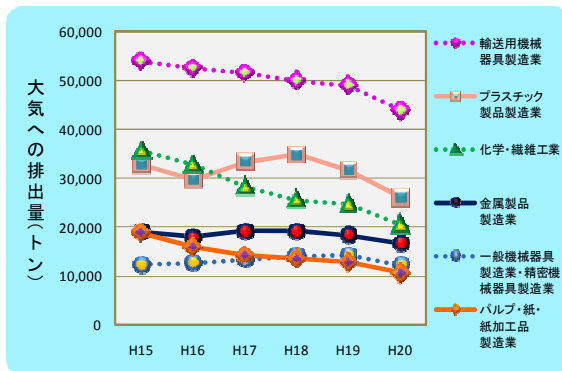


図15 大気への排出量の推移

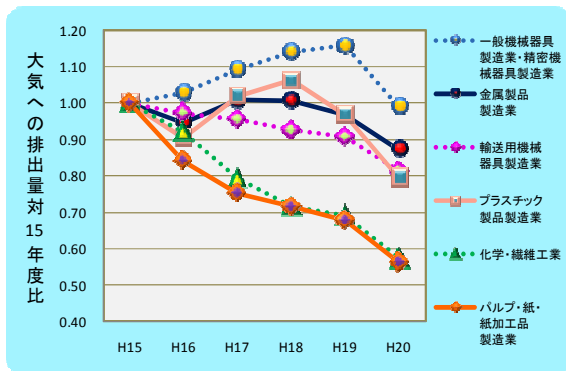


図16 大気への排出量の対15年度比の推移

図17に大気への排出量上位6業種の製造品出荷額の推移を、図18に製造品出荷額の対平成15年度比の推移を示します。一般機械器具製造業・精密機械器具製造業は平成20年度の製造品出荷額は対平成15年度比で約1.4倍であるのに対して、パルプ・紙・紙加工品製造業は対平成15年度比で約1.1倍と変動は大きくありません。大気への排出量の増減は、事業者による排出量削減の取り組みのほか、製造品出荷額にも影響するものと考えられます。

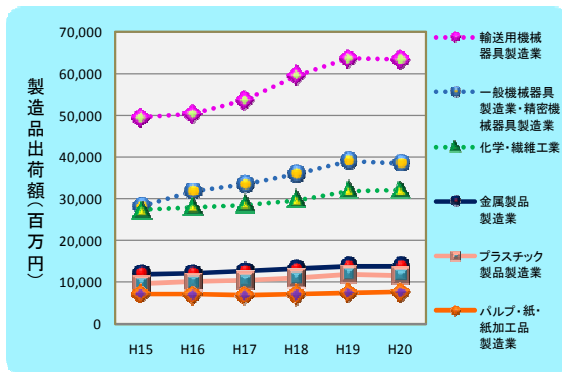


図17 製造品出荷額の推移

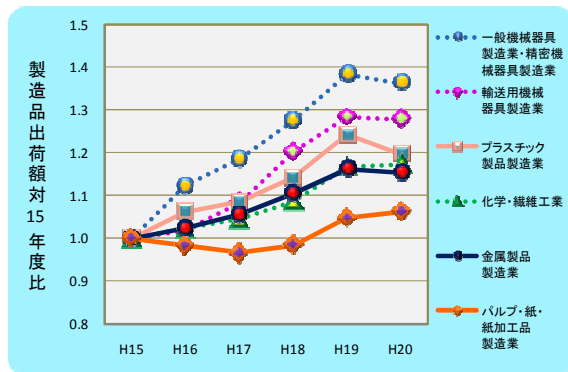


図18 製造品出荷額の対15年度比の推移

実際には、業種や用途によって出荷額と排出量の関係が異なりますが、同一と仮定して、平成15年度の大気への排出量上位6業種について、製造品出荷額に対する大気への排出量の比について、平成15年度を1としたときの各年度の比を図19に示します。

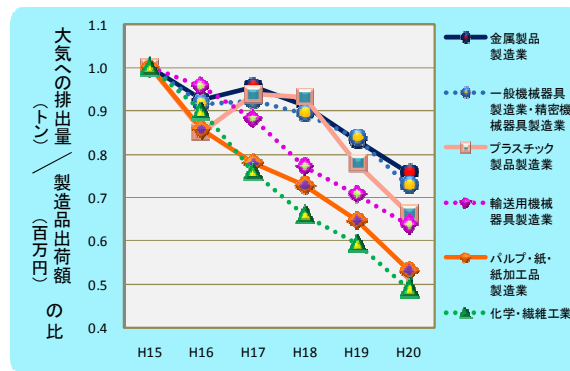


図19 大気への排出量と製造品出荷額比の推移

図16で大気への排出量が平成19年度まで毎年増加していた一般機械器具製造業・精密機械器具製造業は、図19の製造品出荷額当たりの大気への排出量比では、平成20年度まで一定割合で毎年減少しており、この傾向からは製造品出荷額当たりの大気への排出量の削減が一定の割合で実施されてきたことがうかがえます。このことから、平成19年度までの大気への排出量の増加は、製品生産量の増加によるものと考えられます。

一方で、平成20年度では図16にあるように大気への排出量が減少しているのに対して、図19の製造品出荷額当たりの大気への排出量比には変化がみられないことから、平成20年度の大気への排出量の減少は、製品生産量の減少が要因の一つと考えられます。